

## 笠松小学校区適正配置地域協議会に関する概要

笠松小学校区適正配置検討地域協議会における笠松小学校の適正配置に関する協議は、令和7年8月の協議会設立から全3回にわたる協議を経て、「和賀西小学校との統合を第一に検討すること」という最終結論に至り、令和8年1月に結果を提出された。

現在79名の児童数は、令和12年度には46名まで減少する見込みであり、令和12年度に生じる見込みである複式学級による教育的デメリット（集団学習の制限など）の解消が必要と考え、他校との統合が最善と考えた。

協議会は市に対し、統合にあたっての条件として「スクールバスの導入」「事前交流活動の実施」「学童保育の継続のための体制整備」など7項目の要望を提示した。

---

### 1 協議事項や主な意見

#### (1) 第1回

適正配置検討委員会から計画策定の趣旨説明の後、地域協議会委員から統合に関する所感を確認した。

主な意見

- ・（保護者を中心に）できるだけ早期に統合してほしい。男女の構成比の偏りへの懸念、一定規模での社会性の育成の期待のほか、修学旅行を合同としているものの現地では別行動となり一体的になっていないなどの理由から。
- ・一部保護者の子どもは今の人数が丁度いいと感じている。
- ・学校がなくなることの寂しさ、学校の名前や歴史を守りたい意見にも配慮が必要では。
- ・仮に統合しても再度複式学級が生じる可能性や、中学校校舎の老朽化についても懸念

#### (2) 第2回

学校統合のメリットやデメリットについて、議論した。

主な意見

- ・統合校同士の気持ちを考慮しながら、統合手法の着地点を探っては
- ・（統合校同士が）対立関係とならないように
- ・通学の安全性の確保の必要性がある
- ・子どもたち自身は環境の変化に適応できるだろう

#### (3) 第3回

別紙のとおり、協議結果や統合条件をまとめた。